



【オーガニックビレッジ宣言について】

[環境に配慮した付加価値の高い農業の実現と地域活性化等を目指して]

令和4年4月1日付けで国採択通知を受け、「有機農業産地づくり推進緊急対策事業」に取り組んでいますが、本事業の一環として、オーガニックビレッジ宣言を行います。

■ 内容説明

【趣旨】

農林水産省は、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するための目標を掲げており、本市においても、令和4年4月1日付けで国採択通知を受け、「有機農業産地づくり推進緊急対策事業」に取り組んでいる。

今般、環境に配慮した付加価値の高い農業の実現と地域活性化等を強力に推し進めるため、別紙のとおりオーガニックビレッジ宣言を行うもの。

【これまでの経過と今後の予定】

年月日	内容
令和4年 4月1日	有機農業産地づくり推進緊急対策事業 国採択通知
4月	市補正予算措置
	事業実施計画承認等 → 事業開始
5月	市検討会（関係機関・団体・学識経験者等で構成）の開催
令和5年 4月	令和5～9年度の実施計画策定
	オーガニックビレッジ宣言
令和5年度	国支援：令和4～6年度（3か年度段階的削減補助） 実施計画に基づく取組の実施（推進体制づくり等）
令和6年度	
令和7年度	自立：令和7～9年度 実施計画に基づく取組の定着
令和8年度	
令和9年度	

有機農業の取組拡大・実施計画の実現

【本市の計画概要】

令和5～9年度までの5か年計画の中で、4本の柱である「地域づくり」、「人づくり」、「ネットワークづくり」、「機運・仕組みづくり」、それぞれの仕組みづくりを行い、循環させ、地域の課題である後継者や担い手の育成を推進するとともに、市民の有機農業への意識醸成を図り、オーガニックビレッジに向けた有機農業の産地づくりに取り組むもの。

「地域づくり」… 五箇山地区における有機農業の展開（米、五箇山かぶら等）

「人づくり」… 収量・品質の安定生産に向けた生産技術力の向上

「ネットワークづくり」

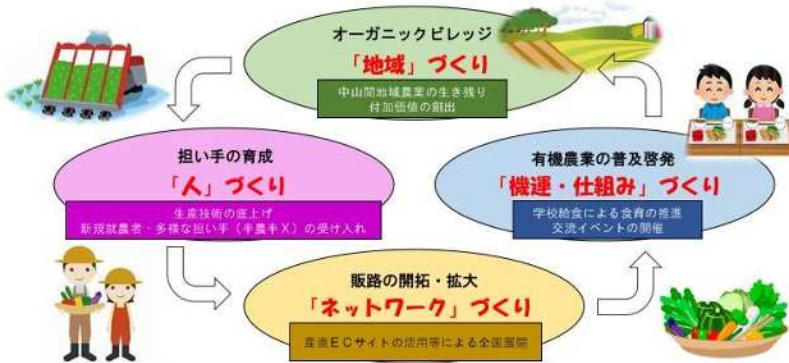
… “外”に向けた販売戦略による南砺市有機農産物の知名度向上・ファンの獲得

「機運・仕組みづくり」

… “内”に向けた有機農業への理解の醸成・地産地消（学校給食）による安定供給体制の強化

南砺市

南砺市『オーガニックビレッジ』構想



南砺市には豊かな自然を守り、人との繋がりを大切にする風土があります。その精神を大切にし、長年、有機農業を培ってこられた先達となる農業者と、近年、有機農業を志す新規就農者により、持続可能な農業に対する機運が高まりつつあります。そのような中、関係者が一丸となって、とりわけ厳しい環境下にある中山間地域において、付加価値の高い有機農業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止や、若い新規就農者の受入れによる地域活性化を推し進めたいと考えています。

また、SDGsも積極的に推進しており、オーガニックビレッジを進めることで、農業の側面から持続可能な地域づくりにも寄与していきたいと考えています。

有機農業を進めることにより南砺市ならではの「農」と「食」の魅力を国内外に発信できるよう体制整備を進めるとともに、地域全体の更なる発展を目指し、ここに「オーガニックビレッジ宣言」をします。

令和5年4月4日

南砺市長 田中幹夫

南砺市 有機農業実施計画

1. 市区町村							
南砺市							
2. 計画対象期間							
令和	5年 ~ 令和 9年						
3. 対象市区町村における有機農業の現状と5年後に目指す目標							
<p>ア 有機農業の現状</p> <p>南砺市は富山県の南西に位置しており、庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、栽培条件にも恵まれているため県内でも特に農業が盛んな地域である。有機農業においては現在、個人経営が24人で、耕作面積は34.9ha、販売数量は126tとなっている。また、近年有機農業を志して県内外からの移住者も増えている。</p> <p>中山間地域の皆葎熊川では令和4年度から水稻の有機栽培を50a試験実証しているが、富山県みどりの食料システム基本計画における特定区域に設定され、将来的には皆葎熊川地域全体で有機農業の実践を図ることを目指していく。</p> <p>学校給食においては市内全小・中学校・義務教育学校での給食および市内公立保育園で令和元年度から有機農産物が導入されているが、まとまった生産量が確保できていないため、年に4回の導入のみにとどまっている。また生産量が不安定であることから販売単価も割高となっているため、安定した生産ができるように農業者全体の生産技術の向上を図る必要がある。</p> <p>また、市民を対象として有機農業に関するアンケートを行ったところ、「有機農業やオーガニックという言葉を知っている」という回答を複数得られたが、「購入者は少ない」という結果も同時に得られた。購入していない人の理由は「値段が高い」、「購入しやすい場所で販売していない」という意見が多数を占めていた。このことから農業者にあつては収量を増やすことにより購入しやすい金額に近づけること、市民に対しては有機農業に関するイベントやセミナーなどを開催することにより有機農業に対するリテラシーの向上を目指す必要がある。</p>							
<p>イ 5年後に目指す目標</p> <table> <tr> <td>・有機農業の面積拡大</td> <td>R3 34.9ha → R9 36.0ha</td> </tr> <tr> <td>・有機農産物の販売量拡大</td> <td>R3 126.0t → R9 129.8t</td> </tr> <tr> <td>・有機農業者の増加</td> <td>R3 24人 → R9 27人</td> </tr> </table>		・有機農業の面積拡大	R3 34.9ha → R9 36.0ha	・有機農産物の販売量拡大	R3 126.0t → R9 129.8t	・有機農業者の増加	R3 24人 → R9 27人
・有機農業の面積拡大	R3 34.9ha → R9 36.0ha						
・有機農産物の販売量拡大	R3 126.0t → R9 129.8t						
・有機農業者の増加	R3 24人 → R9 27人						
4. 取組内容							
<p>ア 有機農業の生産段階の推進の取組</p> <p>「地域」づくり</p> <p>中山間地での自然ロケーションを生かした有機米の栽培や、五箇山独自の伝統野菜「五箇山かぶら」における在来種の保存など、「有機農業×地域特産物」の生産による付加価値の創出で、地域ブランドを確立し「有機の里南砺市」をつくりあげる。また有機栽培の面積拡大に向けて栽培技術の確立や除草作業の機械化による省力化を図る。</p> <p>「人」づくり</p> <p>先進地視察や講習会による農業者の栽培技術を向上させる。 また、作物ごとの栽培技術をマニュアル化し新規就農者の参入間口を広げる。</p>							
<p>イ 有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組</p> <p>「ネットワーク」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ECサイト構築による遠隔地から南砺市の特産物の購入がいつでも可能になる環境を構築するとともに、首都圏の飲食店と交流を図り、販売網を拡大させる。 ・有機農産物を切り口として人の呼び込みを図るために、インフルエンサーを活用して南砺市への有機食材モニタリングツアーを開催し、SNS等を通じて有機食材の知名度向上を図る。 <p>「機運・仕組み」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理人を招へいし、地元有機食材使用による試食会を開催する。 ・有機農業PR活動の一環として、市民参加型の田んぼの生き物調査や田んぼの教室などを開催する。 ・市内全小・中学校・義務教育学校での給食および市内公立保育園でのおやつの際に有機農産物を導入することや、山間部の配送について試行を行う。 							

5. 取組の推進体制

ア 実施体制図

別紙のとおり

イ 関係者の役割

・南砺市

有機農業実施計画の実施に必要な事務および農業者への支援

・富山県

事業遂行への協力・アドバイス等

・南砺市有機農業産地づくり検討会

有機農業実施計画の実施に必要な検討・助言

・有機農業者

有機農業に係る取組の試行・実施

・加工・販売先

有機農産物の販売取扱いによる環境保全や循環型社会への配慮と有機農業のPR

・飲食店

有機農産物の販売取扱いによる環境保全や循環型社会への配慮と有機農業のPR

・南砺市内の学校

学校給食へ有機農産物の導入による食育の推進

・消費者

農作業体験による有機農業の普及・啓発

消費者参加型の生き物調査による食・農・自然の関りを知る

6. 資金計画

別紙のとおり

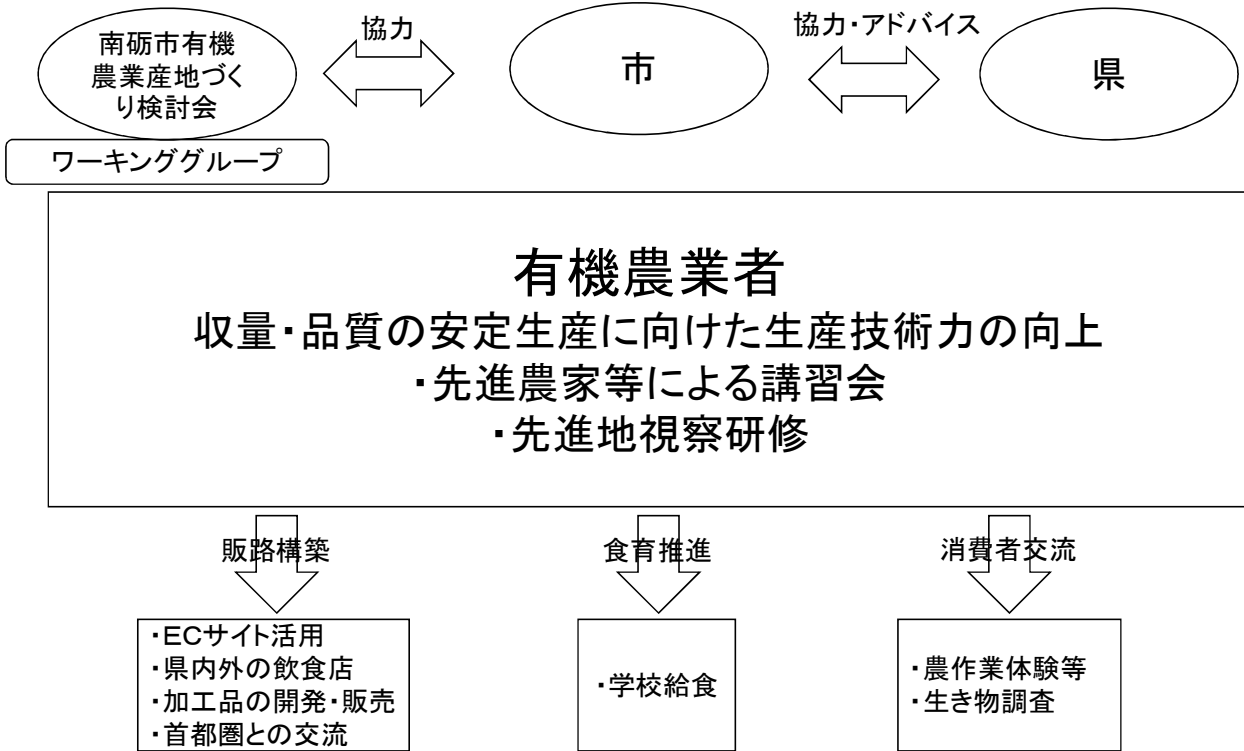
7. 本事業以外の関連事業の概要

8. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について

※基本計画と本実施計画との関連性等必要に応じて記載すること

9. その他（達成状況の評価、取組の周知等）

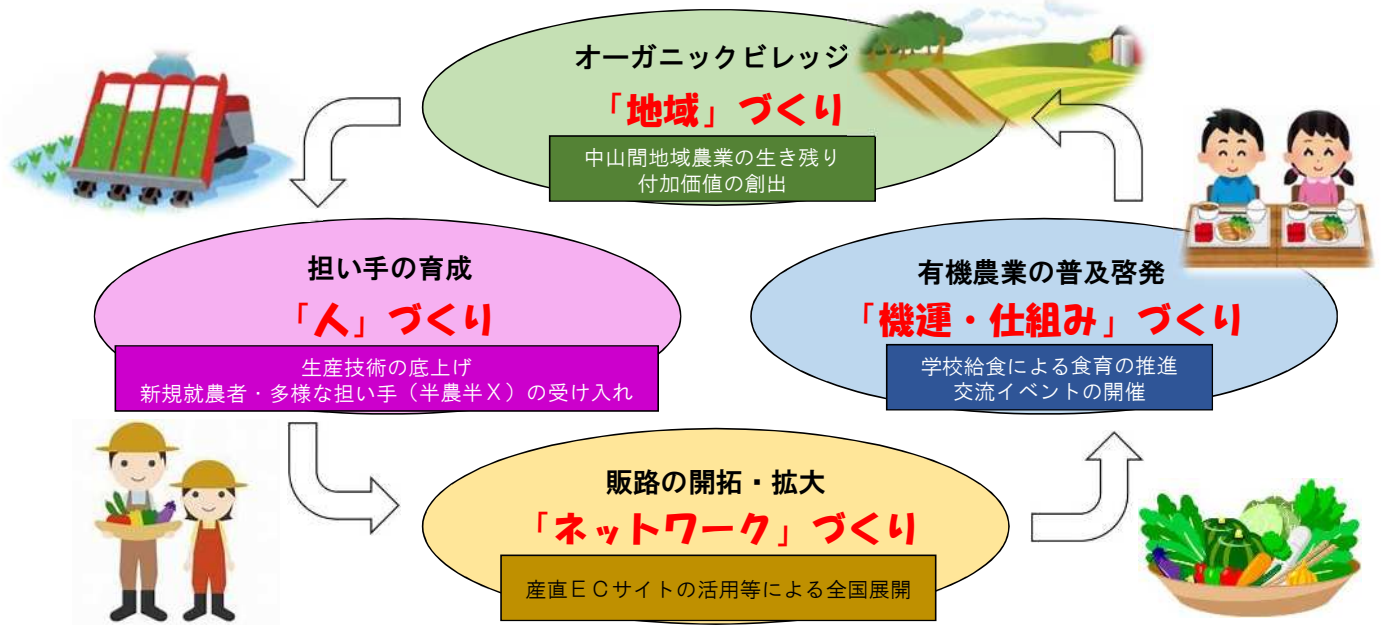
5. ア 実施体制図



6 資金計画

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
区分	1. 生産段階 2,993千円 (内訳) ・「地域」づくり 2,584千円 ・「人」づくり 409千円 2. 流通、加工、消費等 5,040千円 (内訳) ・「ネットワーク」づくり 2,460千円 ・「機運・仕組み」づくり 2,580千円	1. 生産段階 2,320千円 (内訳) ・「地域」づくり 2,000千円 ・「人」づくり 320千円 2. 流通、加工、消費等 4,000千円 (内訳) ・「ネットワーク」づくり 2,000千円 ・「機運・仕組み」づくり 2,000千円	2. 流通、加工、消費等 1,250千円 (内訳) ・「機運・仕組み」づくり 1,250千円	2. 流通、加工、消費等 1,250千円 (内訳) ・「機運・仕組み」づくり 1,250千円	2. 流通、加工、消費等 1,250千円 (内訳) ・「機運・仕組み」づくり 1,250千円

南砺市『オーガニックビレッジ』構想



点から線へ、そして面へ

五箇山米 project.
hinodeyaseika X gokayama

MOA自然農法環境保全会
なんとのね

有機農業産地づくり研修会

有機農産物のPR

五箇山かぶら伝承プロジェクト

生き物調査

マルシェ

首都圏との交流

料理教室

学校給食

保育園のおやつ

田んぼの教室

有機米栽培実証

地元企業とのタイアップ

福野地区
井波地区
井口地区
福光地区
城端地区
平地区
上平地区
利賀地区

土曜の会「夢」グループ

ロードマップ(案)

区分	短期～中期	長期	将来ビジョン
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・水稲栽培における中間管理作業の省力化(アイガモロボ、乗用除草機等)や、エビデンスに基づいた土づくりにより栽培技術を確立する ・五箇山かぶらの復活と伝承 ・有機JAS認証取得により世界基準の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺市オーガニックスクール開講 (通年で市内有機農家にて順番に研修を行っていく) ・地元資源を活用した堆肥生産施設により循環サイクルを生み出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産から消費まで循環するフードシステムを確立(オーガニックビレッジ) ・市内の食は市内の農産物でまかなえるようにする。
販売	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の食品メーカーやレストランとのタイアップ ・首都圏における市内有機農産物の魅力の認知拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・国外へ南砺市のブランド農産物の輸出 ・市内有機農産物の販路の確立・拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSA(地域支援型農業)地域住民が農業を支える
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施。認知度、理解度等を把握し、引き続き「なんと自然給食ものがたり」を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、「なんと自然給食ものがたり」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・100%地元食材による学校給食の提供